

は し が き

横浜市公害研究所と道路環境研究会（横浜国立大学建築学教室内）では、市街地を通過する幹線道路沿道地域における自動車騒音公害対策の一手法として植樹帯に着目し、昭和57年度から59年度の3ヶ年にわたり、植樹帯による物理的・心理的減音効果の研究を進め、実験室実験を中心としたその成果を『道路周辺の植樹帯による物理的及び心理的減音効果に関する研究』として報告書にまとめました。一方、横浜市緑政局は昭和60年度から61年度にかけて、磯子区森1丁目産業道路沿道を対象にアラカシを中心とした植樹帯を新たに設置する計画を立案しました。60年度にはその一部であるJR磯子駅前より森新橋までの全長350mについて実施されましたが、61年度分の施工に当り、上記報告書に注目し、より効果的に植樹帯を設置するため、当該植樹帯の効果について意見を求めてきました。

それを受け、道路環境研究会改め道路緑化研究会は、横浜市緑政局及び同公害研究所と提携し、植樹帯設置前後における物理的減音効果と心理的減音効果、及び植樹帯設置が市民生活に与える影響を調査し、地域住民に好感を持って受け入れられる植樹帯の設計指針を得ることを目的として活動を開始しました。これまでの実験室での研究結果を実際の現場に適用し、検証発展させる良い機会でもあります。

本調査対象地区の歩行者空間は、交通量が多く大型車混入率も大きい産業道路に沿っており、騒音レベルも相当に高く、良い環境とは言えません。また、この歩道は駅、学校、商店等に行くために通らなければならない空間でありながら、他のレクリエーション的意味を持たない空間であるために、市民の意識の上で良い印象にあるとは思われません。しかし、駅や商店に近いという利便性から、行動上生活パターンに組み込まれた重要な空間であるだけに、適切な植樹帯の設置は市民の居住環境に対する意識を良い方向に導く上で有効な手段となるであろうと予想されます。

本報告書の第I部では、61年度分の植樹帯施工前と直後及び施工後1年を経て実施した当該道路周辺住民を対象にした3回のアンケート調査と、

当該道路歩道の歩行者を対象とする3回のインタビュー調査、及び施工後8ヵ月後に実施した歩行者の行動観察をまとめています。第Ⅱ部では、当該道路周辺での現場実測をもとに植樹帯による挿入損失についてまとめています。

今回の横浜市磯子区でのケーススタディーは、居住環境向上のための道路緑化にとって貴重な資料となるものと自負しております。しかし、未解明な問題や今後発展させねばならない課題等多々あります。関係各位の御批判と御意見を賜われれば幸いです。

尚、当該道路周辺の居住者及び歩行者の方々からは貴重な御意見を頂きました。ここに謹んで深く感謝の意を表します。

1988年 3月

道路緑化研究会代表 田村 明弘

研究担当者名簿

道路緑化研究会

代表	田村 明弘	助教授	横浜国立大学工学部 建築学教室環境工学研究室
	深井 一夫	助手	同上
	木村 千博	技官	同上
	鈴木 弘之	院生	同上 大学院博士課程後期 3年生
	大塚 弘之	院生	同上 大学院博士課程前期 2年生
	田中 真	院生	同上 大学院博士課程前期 1年生
顧問	後藤 滋	教授	横浜国立大学工学部 建築学教室環境工学研究室
	小林 重敬	教授	横浜国立大学工学部 建築学教室都市計画研究室

横浜市公害研究所

鹿島 教昭

横浜市緑政局

岡沢 信一

中村 明世

佐藤 斎

村瀬 幸子